

# シヨスタコーヴィチ歌曲個展

第2回 初期から晩年まで  
半世紀の歌曲創作の軌跡

ШОСТАКОВИЧ

2022  
12.27 (火) 開演 17:00  
開場 16:30 (終演予定 21:00)

大泉学園ゆめりあホール 東京都練馬区東大泉1丁目 29-1

西武池袋線「大泉学園駅」北口徒歩1分（「ゆめりあ1」建物内6階）

坂口真由 ソプラノ  
益田早織 メゾソプラノ  
金沢青児 テノール  
牧山 亮 バスバリトン  
川村恵里佳 ピアノ  
一柳富美子 解説・字幕

入場料

一般 4,000円  
学生 3,000円  
【全席自由】  
(6歳以上入場可)

購入方法

- 予約フォーム 
- ゆめりあホール窓口
  - 販売期間 9/27 - 12/26
  - 窓口受付時間 10:00 - 20:00  
(12/26のみ 10:00 - 16:00)



Piano  
川村恵里佳

Mezzosoprano  
益田早織

Tenor  
金沢青児

Soprano  
坂口真由

Player

Bass  
牧山 亮

## Program

- 1922 ◆ クレイローフの2つの寓話 作品 4  
Две басни Крылова, соч. 4 (1922)
- 1928 ◆ 日本の歌人の詞による6つのロマンス 作品 21a  
Шесть романсов на слова японских поэтов, соч. 21a (1928-32)
- 1948 ◆ ユダヤの民族詩から 作品 79  
Из еврейской народной поэзии, соч. 79 (1948)
- 1950 ◆ レールモントフの詩による2つのロマンス 作品 84  
Два романса на стихи М. Ю. Лермонтова, соч. 84 (1950)
- 1950 ◆ ドルマトーフスキイの詞による4つの歌 作品 86  
Четыре песни на слова Е. Долматовского, соч. 86 (1950-51)
- 1952 ◆ ギリシャの歌  
Греческие песни (1952-53)
- 1954 ◆ 口づけを重ねた  
«Были поцелуи» (1954)
- 1960 ◆ 風刺(過去の情景) 作品109  
Сатиры («Картинки прошлого»), соч. 109 (1960)
- 1965 ◆ 雑誌「クロコディール」からの詞による5つのロマンス 作品121  
Пять романсов на слова из журнала «Крокодил», соч. 121 (1965)
- 1966 ◆ 自作全集への序文とその序文についての短い考察 作品 123  
Предисловие к полному собранию моих сочинений и краткое размышление по поводу этого предисловия, соч. 123 (1966)
- 1967 ◆ 春よ、春よ…… 作品 128  
«Весна, весна», соч. 128 (1967)
- 1974 ◆ ミケランジェロ・ブオナローティの詞による組曲 作品 145  
Сюита на слова Микеланджело, соч. 145 (1974)
- 1974 ◆ レビヤートキン大尉の4つの詩 作品146  
Четыре стихотворения капитана Лебядкина, соч. 146 (1974)

演奏順未定



解説・字幕：一柳富美子(ロシア音楽学者)  
(写真中央)  
シヨスタコヴィチの長女ガリーナ氏(写真右)  
シヨスタコヴィチの3番目の妻イリーナ氏(写真左)  
※当日ガリーナ氏、イリーナ氏の出演はございません。

### 【入場制限】

新型コロナウイルス感染拡大防止を目的に、以下に該当するお客様はご来場をお控えいただけます。

- 37.5度以上の発熱や下記の症状があるお客様  
咳、呼吸困難、全身倦怠感、咽頭痛、鼻汁・鼻閉、味覚・嗅覚障害、関節・筋肉痛、下痢、嘔気・嘔吐等の症状
- 新型コロナウイルス感染症陽性とPCR検査で判定された方との濃厚接触があるお客様
- 過去2週間以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国・地域への訪問歴及び当該在在者との濃厚接触があるお客様

### 【ご来場のお客様へのお願い】

- 正しいマスクのご着用をお願いします。また館内での大声をお控えいただき、咳エチケットにご協力をお願いいたします。
- 基礎疾患をお持ちの方、妊娠中の方は関係機関の情報を参考にしてください。慎重なご判断をお願いいたします。

〇二一年三月、新型コロナ第三波に伴う緊急事態宣言が明けて間もない東京で、シヨスタコヴィチ歌曲個展―生誕一五周年に寄す―と銘打った演奏会がひっそりと開かれた。一人の歌手と一人のピアノリストが、シヨスタコヴィチばかり六つの歌曲集、二時間を

超えるプログラムを歌い通すという前代未聞の試みはひそかな、しかしとてつもない話題を呼んだ。その第二弾となる本公演では規模をさらに拡張し、重唱も含む大小十三に及ぶ作品を四人の歌手が代わる代わる歌う。それもわずかに十五歳の少年の手による「クルイローフの二つの

寓話」から、死の前年に書かれた最後の歌曲「レビヤートキン大尉の四つの詩」まで、半世紀に亘る作曲家の足取りを俯瞰する「歌曲の大回顧展」とでも呼ぶべき充実した内容となった。日本でシヨスタコヴィチの音楽が聴かれる機会は、一部の交響曲など限られた作品に偏っており、

音楽を伴う楽曲が取り上げられることはまだ少ないのが現状だ。前回に引き続き、ロシア音楽の第一人者、一柳富美子氏による解説と字幕を伴った演奏により、この作曲家が歌曲というジャンルに託した思想を通して、作曲家の新たな側面を発見するきっかけとなるだろう。